



佐倉市議会議員 齊藤ひろゆき

齊藤ひろゆき 通信 VOL.6

6月 代表質問

【ゼロカーボンシティ宣言】

問…地球温暖化対策を踏まえ、佐倉市でも、令和3年8月13日に、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロを目指す取組として、ゼロカーボンシティ宣言を行い、脱炭素の実現に向けて、オール佐倉で取り組むと、西田市長が申されおりました。また、市民や事業者の皆様も、今まで以上に地球温暖化対策に関心を持って、環境に配慮した取り組みへのご協力をお願いします。とも付け加えておりました。そこで、具体的にどのような取組を行っているのか、伺います。

答…国の2050年カーボンニュートラルを踏まえた温室効果ガス排出量の削減目標の変更や省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの利用促進、低炭素型まちづくりの推進などを中心に検討を行ってまいります。さらに、温室効果ガスの排出量削減するためには、脱炭素社会の実現に向けて、さらなる技術革新と、その普及拡大も不可欠でございますので、脱炭素社会の実現に向けた施策について検討を進めてまいります。

要望…地域脱炭素ロードマップでは、環境省が、地域脱炭素移行再エネ推進交付金として、様々なメニューを準備しております。国はこの5年間で集中期間として、政策を総動員するともあります。第5次佐倉市総合計画の見直しにおいても、SDGsゼロカーボンシティ宣言の実現に向けて積極的に計画をしていただきたい。とは言っても、温室効果ガスは目に見えず、データの集約にも膨大な時間がかかり、お金がかかり、労力がかかります。調査研究による数値設定も容易ではございません。そこで紹介したいのが、グループの温暖化対策をサポートするプラットフォーム、エンバイロメンタルインサイツエクスプローラーです。このEIEは、グループの地図データと、AIによるモデリング技術を使用するオンラインツールです。市町村ごとの建物と交通由来の温室ガス推定排出量と、太陽光発電による温室効果ガス削減予想値を算出し、視覚化することができ、具体的な対策に役立ちます。既に京都市、横浜市等で活用され、行政の事業に導入されており、時間もお金も労力もかからず、AIがシミュレーションした数値を瞬時に確認することができます。これまでできなかったこと、新しい発想を生むには最適なツールと捉えております。このEIEを活用して、今までと違った取組を進め、ゼロカーボンシティの実現に向けて加速していただくようお願いいたします。

【有機農業の推進】

問…農業の担い手が減少している中で、通常の栽培に比べ労力がかかり、安定制限が厳しい、有機農業における生産者の確保は、特色確保や育成は重要であり、手厚い支援が必要であると考えます。そこで、有機農業の推進について、市では

どのように考えているのか伺います。

答…有機農業につきましては、環境負荷を軽減し、持続可能な社会を目指すSDGsの観点からも注目されており、重要な取組であると認識しております。また、より環境に配慮しているということからも、有機農業への関心は高まってきております。昨年、国で作成されました、みどりの食料システム戦略におきまして、有機農業の大幅拡大が重点施策の一つとなっておりますことから、有機農業について推進してまいります。

問…みどりの食料システム戦略推進交付金のうち、有機農業産地づくり推進事業として、自治体や地域のアイデアによる多様な取組へ交付金を準備しております。オーガニックビレッジに向けた取組を加速するいい機会だと考えますが、市の見解を伺います。

答…オーガニックビレッジに向けた取組につきましては、令和4年5月6日付けにて、有機農業産地づくり推進事業の承認を得たことから、検討部会を立ち上げたところでございます。今後は、みどりの食料システム戦略推進交付金を活用し、有機農業の推進に向けた取組を進めてまいります。

問…有機農業は、地域ぐるみで生産性の安定、流通の効率化、販路拡大、消費まで一貫し、農業者のみならず、事業者や市民を巻き込んだ取組が必要であると考えます。オーガニックビレッジの宣言に向け、検討部会がとも重要な位置づけであると捉えますが、具体的な検討事項について伺います。

答…オーガニックビレッジ検討部会につきましては、農業者、消費者、事業者、JA千葉県を初めとした関係機関、15名で構成され、5月18日に第1回目の検討部会を開催したところでございます。具体的には、試行的取組として有機農業セミナーや先進地の視察、栽培技術の実証等を行う予定でございます。加えて、学校給食での活用も検討しており、今後の有機農産物の販路拡大、生産拡大に向け、様々な課題について検討してまいります。

要望…本市は、自校式給食の強みがありますので、みどりの食料システム戦略を通じて、地球温暖化対策及び定住人口の維持増加となるように施策を進めていただきたい。仕組みづくりに国の交付金を活用するのは賛成ですが、運用や運営までも交付金に頼っているのは、持続可能な有機農業は厳しいと捉えております。そのためには、検討部会での方向性がやはり肝になってくると考えます。ゼロからつくる、先月、オーガニックフードマイスターの資格を取得してまいりました。そのつながりで、有機農業の推進を行っている企業、NPO等の紹介やノウハウの提供は惜しみなく行いますので、ぜひとも協力しながら、目標達成に向けて取り組んでいただきたい。

【教職員の働き方改革】

問…教職員の残業時間の現状を踏まえ、働き方改革について、これからの教職員の担い手も確保するためにどのように

取り組んでいるのか、教育長の見解を伺います。

答…学校教育は、子どもたちの内面を高め、社会に貢献できる人材を育てていく役割を担っております。子どもたちの成長をつかさどる教職員の確保は、極めて重要と認識しております。私は、教育長として、学校からの要望に対して、常に現場の目線に立って学校を支援することで、教職員の負担軽減を図ってまいります。そして、先生方が心身ともに健康で明るく元気に、児童生徒と接することができる環境を整備してまいります。教育に対する情熱と子どもたちへの愛情あふれる教職員を育成し、教職が憧れの職業となるよう努めてまいります。

問…教職員の増員を要望してまいりましたが、県費で配置される教職員は県の管轄なので県に要望を上げると、こちらも以前に御答弁をいただいております。県への要望は何行い、どのような内容であったのか、県からの回答についてもあわせて伺います。

答…千葉県教育委員会への要望につきましては、毎年2回行っております。内容につきましては、教職員の基礎定数及び少人数指導を初めとする加配教員の増員でございます。昨年度の県からの回答としましては、人材や財源に対する支援について引き続き国に対して要望していくとの内容でございました。引き続き、千葉県教育委員会へ教職員の増員要望を行ってまいります。

【GIGAスクール構想】

問…GIGAスクール構想について、令和3年4月に、1人1台のタブレット整備が完了し、導入から約1年が経過しました。タブレット操作で児童生徒が取り残されないため、各学校で対応しているとも聞いております。佐倉市のGIGAスクール構想では、学びのステップを4つに分けており、学校によってそれぞれ進捗があると思いますが、各学校で、ステップの進捗状況に差が生まれていないのか伺います。

答…現在、各学校におきましては、市のGIGAスクール構想の実現に向けて、ICTを活用した授業の展開など、それぞれ工夫した取組を行っているところでございます。また、学びのステップでは、全小・中学校において、最上位のステップ4の遠隔授業が可能となっております。しかしながら、ICTの活用頻度においては、学校間に格差が生じている状況でございます。

問…では、各学校の進捗状況に差が生まれないように、進捗が遅れている学校へのサポート体制について、どのように行っているのか伺います。

答…進捗が遅れている学校へのサポート体制につきましては、ICT活用事例動画の紹介や、先進的な取組事例を全校で共有できるシステムを活用しているところでございます。また、学校の状況を把握した上で当該校へは指導主事を派遣し、教職員を対象に研修会を実施するなど、サポート体制の確立に努めているところでございます。

2022年6月・8月

定例議会
議会報告

6月代表質問

【街路樹・公園整備】

問：私の住んでいるユーカーが丘地区は、大きくなり過ぎた街路樹が多くあり、歩道の根上がりも発生している箇所が何か所もございます。都市マスタープランでも、地域の将来像として、歩いて暮らせる、歩いて楽しいまちづくりと挙げられています。お隣の宮ノ台地区では、街路樹の選定を先行して行われておりました。ユーカーが丘地区においては、ピンク色のビニールテープを街路樹に巻いて印をされており、伐採予定のものと理解しております。そこで、伐採の選定に当たり、どのような条件で決められたのか伺います。

答：宮ノ台地区につきましては、自治会から、街路樹伐採の要望を受けて、昨年度に、宮ノ台入り口バス停付近から井野中学校の信号のある交差点までの市道1の2号線及び1の39号線の街路樹を全て伐採いたしました。ユーカーが丘地区につきましては、安全な通行を確保するため国道296号八千代バイパスからユーカーが丘南部調整池までの市道1の39号線の街路樹のうち、倒木の恐れのある樹木、街灯や標識、信号機に支障がある樹木を対象として、伐採を本年度秋に予定しております。

要望：街路樹の整備については、自治会の要望事項として多く取上げられているところです。落葉で側溝が詰まり、水たまりの原因となり、その結果、歩行者の安全確保に支障をきたしている箇所が多くあります。また災害時の倒木や電線への接触による停電も想定されます。定住人口を増やす意味でも、街路樹の整備を行い、安全な歩道の確保は必須であると考えますので、より安心安全なまちづくりを引き続きお願いいたします。

問：公園の整備計画に関して、地域住民や利用者の意見や要望を取り入れ、魅力ある公園づくりはできないものなのか伺います。

答：地域住民や利用者のニーズを的確に把握することが重要であると認識しております。今年度は、本市のみどりのマスタープランともいべき、佐倉市緑の基本計画を策定することとしており、策定過程において、市民アンケート調査や自治会など公園利用団体へのヒアリングを予定しているところがございます。策定に当たりましては、様々な御意見を取り入れながら、今後の公園の在り方や整備方針を検討し、魅力ある公園づくりに努めてまいります。

問：東京オリンピックでストリート系のスポーツが大変人気となりました。例えば、スケートボードやバスケットボールなどは需要が増えているところです。このようなスポーツができる特徴のある公園整備がにぎわいと活性力を生むものだと考えますが、市の見解を伺います。

答：東京オリンピックを契機に、スケートボードなど新しい競技が世間の注目を集めており、このようなスポーツに

特化した特徴ある公園づくりにしても、今後の公園整備を検討する上で必要な要素であると認識しております。先ほども御答弁いたしましたとおり、緑の基本計画を策定する中で利用者のニーズ等を的確に把握し、今後の公園整備に生かしてまいります。

【観光Wコア構想】

問：(仮称)佐倉図書館等新町活性化複合施設の建設が令和4年8月下旬に完成予定となり、開館予定まで、間もなくの時期となりました。新しい佐倉図書館の建て替えを核として、歴史文化のまちを象徴する旧城下町の保全や地域の活性化にも資する施設として整備することとし、観光Wコア構想が策定されました。図書館が主軸となる施設ですが、活性化複合施設としての活用方法について伺います。

答：(仮称)佐倉図書館等新町活性化複合施設、いわゆる夢咲くら館につきましては、観光Wコア構想において、国立歴史民俗博物館、佐倉城址公園、武家屋敷等へ回遊するための核となる施設として位置づけしております。施設では、佐倉の歴史に関する展示や、観光文化拠点と連携した情報提供を行い、市内での滞在時間延長や消費拡大につなげてまいりたいと考えております。また、観光客のほかに、親子や地域の方々々が休憩や余暇活動を気軽に楽しめるポケットパークとしての機能も期待できることから、秋祭りや地元イベントなど市民の活動拠点としても活用していく方針です。

問：ふるさと広場の拡張後には、食事のできる施設や大型バスが駐車できるスペースなどを予定し、四季折々の花をメインにした観光地を計画されていると聞きました。体験型の施設、観光施設も集客力があり、幅広い年齢層に向けた観光誘致や情報発信が可能と考えますが、そういった計画があるのか伺います。

答：昨年度に策定いたしました整備基本計画では、花、農業、環境をテーマに、見るだけではなく、体験する、食べるといった機能を備えた施設を整備していくこととしております。例えば、農作物の収穫ができる体験農園や、花を使ったワークショップなど、テーマと機能を組合せたコンテンツを多数用意することで、幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけると考えております。また、長時間滞在していただき、かつ、リピーターを増やすことのできる施設にしたいと考えております。

問：観光Wコア構想では、城下町地区と印旛沼周辺の2つの観光拠点を結ぶインフラ整備が最も重要であり、アクセスが悪く、常に渋滞しているようでは、リピーターの確保は難しいと考えます。そこで、田町バイパス早期開通、船着場の整備及び駐車場の整備、仮設江原台駅、それぞれの進捗状況を伺います。

答：主要地方道佐倉印西線田町バイパスにつきましては、市長自らが県知事や京成電鉄幹部に面会し、整備促進の

要望をしております。事業の進捗状況でございますが、現在、鉄道との交差点間について、立体交差となる、京成電鉄と協議を進めているとの報告を県から伺っております。

次に、船着場及び駐車場の整備につきましては、県が川まちづくり計画に基づき、田町一里塚を設置するための工事を令和2年度から開始したと伺っており、完成は令和5年度以降となる見込みでございます。さらに、江原台地区の仮設駅につきましては、ふるさと広場における大きなイベント開催時の臨時的な設置の可能性について模索しておりますが、具体化していない状況でございます。引き続き、京成電鉄との連携を進める中で、仮設駅設置につきましても、共有の課題として認識し、引き続き協議を重ねてまいります。

8月決算審査

令和3年度一般会計、各特別会計及び公営企業会計の決算の認定につきましては、歳入総額590億1360万3千円、前年度比17.7%減となり歳出総額は557億232万6千円、前年度比19.2%減となりました。主な内容として歳入では、市税が2.8%減、歳出では生活用道路整備事業が12.8%減、新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金が歳入歳出共に大きく影響しました。実質単年度収支では黒字になり財政調整基金も増加し51億2606万7千円となりました。また、実質赤字費、連結実質赤字費、実質公債費率、将来負担比率の4指標ともに早期健全化基準を下回り財政は良好と捉えられます。

しかしながら、経常的経費のうち義務的経費については、人件費・扶助費の増加がみられ、投資的経費は金額、構成比共に減額となりました。山積する課題を解決する基盤をより一層固め、DX等を積極的に取り入れながら効率の良い財政運営を、引き続きよろしくお願いいたします。

以下4点について、意見を述べます。
1点目、公共施設等の資産管理については、老朽化をはじめ、耐震化、省エネ・再エネ化、バリアフリー化などへの対応が急務となっております。公共施設の配置を見直すだけでなく効率的かつ効果的に使用されているのか、管理運営のための体制や仕組みの最適化に取り組んでいただきたい。また、庁用車の稼働率が51%。保有している全ての車両が燃料車となるので、こちらも効率的かつクリーンな施策へ転換していかねければなりませんので、よろしくお願いいたします。

2点目、子育て・教育・健康・福祉については、地方創生臨時交付金の補助金が減少する事が見込まれ、少子高齢化が加速していく中で新しい視点からの施策を期待します。また、小中学校の情報機器有効活用や給食施設整備、更には、こども医療費助成拡充など、子育て世代が住みやすい

環境や制度に取り組み、人口の増加・定住化に注力していただくよう、お願いいたします。

3点目、産業・都市開発・インフラ整備については、(仮称)佐倉図書館等新町活性化複合施設の、新しい活用方法を見出し特徴のある施設運営に期待いたします。ふるさと広場の拡充整備も同様に特徴ある施設を構築し、観光Wコア構想をしっかりとし、推し進め、魅力ある街づくりを行います。また、道路や公園整備といった街の形成は、住んでみたい・住み続けたいと判断する重要な位置づけとなるので、引き続き維持管理と新設整備に着手いただくようお願いいたします。

最後に主要施策の成果の説明書では、その事業の目的と効果について成果を図る事とし、活動指標・成果指標が記載されているが、効果測定ができない指標を記載している事業項目が散見されます。また、予算額と決算額に大幅な差異が生じているのであれば、注釈としてその原因を記載していただくと、より事業の検証が行えると考えますので、主要施策の成果の説明書の掲載内容・掲載方法についても研究していただくようお願いいたします。



議場にて会派代表質問

佐倉市議会議員 齊藤ひろゆき

HP:<https://sakura-saito.com/>



HPへのQRコード

日々の活動もご覧ください

〒285-0850 佐倉市西ユーカーが丘7-5-8

TEL: 080-5698-3110

E-mail: saitohiroyuki1977@gmail.com